

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	吉田大祐	学校名	埼玉県立 鳩ヶ谷高等学校
担当教科等	現代社会	対象学年（人数）	1年7組（35）
実践年月日もしくは期間（時数）	2021年12月2日・12月7日（2時間）		

【実践概要】

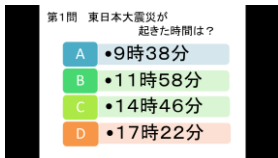
1. 実践する教科・領域：現代社会 人間としてよく生きる		
2. 単元(活動)名：自由の実現・人間の幸福①		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「防災×思考実験×哲学」 単元目標：リベラリズムと功利主義という人間の意思決定にかかわる哲学思想を学び、「防災」をテーマにした思考実験を行うことで、哲学と防災をジブンゴト化する。 関連する学習指導要領上の目標： 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	哲学思想について理解をしたうえで、自ら説明することができる。グループワークなどで意見を交わすことができる。
	②思考力、判断力、表現力等	モラルジレンマにおける葛藤や課題を文章の形で表現できる。
	③学びに向かう力、人間性等	他者の意見を尊重しながらグループの意見を集約するとともに、学びについて内省をすることが出来る。
5. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】 ・教科書で扱う哲学が、生徒自身の生活と乖離し、当事者意識が薄れている。 ・東日本大震災から10年が経ち、防災への生徒の当事者意識が薄れている。 【単元の意義】 教科書で学んだ哲学思想をもとに、震災をテーマにした思考実験を行い、話し合い、発表をさせることで「哲学」と「防災」についてジブンゴト化し、生活の中に落とし込む。 【児童／生徒観】 勤務校は園芸デザイン科、情報処理科、普通科の3学科が併設されており、第一学年では学科を差なく、HRを形成するミックスホームルーム制がとられている。そのため、学力・学んでいる教科・興味関心とも多様な生徒が教室の中に存在している。また、1年7組は、素直な生徒が多いが、他クラスと比較すると、学習へのモチベーションが下がっている生徒もみられる。また、テスト範囲は終了し、テスト直前の授業のため、関心がテストに向かっている生徒が多いことが予想される。 【指導観】 1 生徒自身の思考や対話の時間を多く設ける。 2 生徒自身の思考や発言を引き出し、教員は思考活動に基本的に関わらないようにする。 3 授業内容にあわせて、雰囲気への切り替えを意識する。	

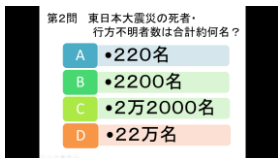
6. 単元計画（全2時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	自由の実現・人間の幸福①	思考実験を通じ、リベラリズムと功利主義という2つの哲学思想について理解する。	思考実験「ミニョネット号事件」から、「多数が生きのびるための殺人は許されるのか」をテーマに話し合ったうえで、「リベラリズム」と「功利主義」について理解をする。	授業プリント ①「思考実験ミニョネット号事件」 ②「授業プリント 自由の実現・人間の幸福①」 ③「哲学思想リベラリズム」「功利主義」
2 本時	防災×思考実験×震災	哲学思想と防災をジブンゴト化し、思考実験の限界を考え、行動のために自分がやるべきことを考える。	東日本大震災について復習したうえで、震災にまつわる思考実験「町長の使命」をリベラリズムと功利主義の立場から行う。そのうえで、思考実験の限界について考え、自分自身が「出来るだけ沢山の命を守るためにできること」は今やるべきことを考える。	授業プリント ・「思考実験町長の使命」 ※研修との関連 パワーポイント内で大川小学校・荒浜小学校の事例を紹介

7. 本時の展開（時間目）

本時のねらい：

教科書で学んだ哲学思想をもとに、震災をテーマにした思考実験を行い、話し合い、発表をさせることで「哲学」と「防災」についてジブンゴト化し、生活の中に落とし込む。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
導入 (10分)	1 点呼 3 発問①「前回の授業を思い出し、リベラリズムと功利主義について、近くの人に説明をしてください。」 4 ランダムで生徒をあて、教室全体で共有。 5 発問②「実際に命の判断を迫られる場面とどんな場面がありますか。近くの人と話し合ってください。」 6 ランダムで生徒をあて、教室全体で共有 7 授業テーマ発表「防災×思考実験×哲学」 8 3～4人のグループをつくらせる。	・明るい雰囲気づくりを心掛ける。 ・パワーポイントでスライドを投影 ・生徒の発言を引き出し、教室全体に共有する支援を行う。	・パワーポイント「防災×思考実験×哲学」 
展開1 (10分)	1 発問③「2011年3月11日あなたはどこで何をしていましたか。グループの人と話し合ってください。」 2 ランダムに生徒をあて、教室全体で共有 3 震災について振り返るクイズ	・当日の出席状況によって、随時グループは変更。 ・徐々に真面目な雰	

	※その都度生徒に話合わせ、解答と説明 Q1 東日本大震災が起きた時間は？ Q2 東日本大震災の死者・行方不明者数は合計約何名？ Q3 第3問 東日本大震災を襲った津波(遡上高)最大何mだった？	雰囲気づくりを心掛ける。	 第2問 東日本大震災の死者・行方不明者数は合計約何名？ A •220名 B •2200名 C •2万2000名 D •22万名
展開2 (10分)	1 生徒全員にプリント「思考実験町長の使命」、各グループにホワイトボード(A4サイズ)とマーカー配布 2 音読 3 発問④「奇数グループは、リベラリズムの立場から町長の判断を考え、偶数グループは功利主義の立場から町長の判断を考え、ホワイトボードにまとめてください。」 4 奇数・偶数グループが混ざった3つのまとまりをつくらせ、順番に自分のグループの立場とグループで考えた町長の判断を説明させる。 5 発問⑤「立場関係なく、あなた自身がこの町長の立場であったらどうしますか。」	・正解はないことを強調する。 ・残り時間によって発表の時間・方法は随時変更をする。	プリント「思考実験町長の使命」 
展開3 (10分)	1 教師「答えはない。様々な考えがある。ただ、もしも多くの人から1つ共通項を抜き出せるとしたら、可能であれば「出来るだけ多くの命を守れる判断をしたい。」と考えているということと言えるのではないか？」 2 教師「そのためには思考実験の2つの限界について学ぶ必要がある。」 3 思考実験の限界① ・大川小学校の悲劇 ・荒川小学校の避難 →「準備がないと出来ない判断がある」 4 思考実験の限界② ・教師自身の3月11日の話 ・教師自身の被災地ボランティアの話 →思考≠行動	・教師自身の体験から話をする。	 ①大川小学校の悲劇  ②荒浜小学校の避難
まとめ (分)	1 防災について考える必要性の説明 2 発問⑥「災害が起こった時、「出来るだけ多	・テスト当日に行う	

	くの命を守れる判断」をするために、みなさんが今からできることは何だと思いますか。個人で考えて、記入してください。」	プリント提出までの宿題とする。	
8. 評価規準に基づく本時の評価方法			
・授業態度の観察（あてられた際の回答、グループでの話し合い、発表の際の役割など） ・授業プリントの記入状況（自分の考えやグループの考えを文章化できているかどうか） ・定期テスト（リベラリズム、功利主義について理解をしているか）			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組			

【自己評価】

11. 苦勞した点	1 「複数のメッセージ」 震災を教材化するうえで、「自分自身」のメッセージと「現代社会」という授業としてのメッセージ、「防災教育」としてのメッセージが混在。すべてを盛り込もうとしてしまった。 2 「生徒のモチベーション」 テスト前の最後の授業での実施で、いかに生徒に授業の活動へモチベーションを持って取り組ませるか。テスト前で自習やテスト対策の時間になっている授業が多く、活動主体である本授業へのモチベーションをどうあげるかに苦心した。 3 「授業内容・進度との兼ね合い」 授業内容や進度と関連させて、研修で得た学びを教材化すること。特別授業としてではなく、通常の授業の延長として実施したいと考えていたが、直前まで形にすることができなかった。
12. 改善点	1 「整理と割り切り」 「自分自身」と「現代社会」と「防災教育」、三者のメッセージの整理、割り切りが最後までできなかった。何を1番に伝えたいのかを明確にし、流れを簡潔にする必要がある。 2 「中長期的なタイムマネジメント」 当日のタイムマネジメントについては、その都度時間を調節し、柔軟に対応できたが、そもそも授業設計自体に時間的な限界があった。まず計画段階から中長期的な視点で、タイムマネジメントを行う。 3 「モチベーションアップへの種まき」 あらかじめ「この時間にこういう活動をする。そこでは、こんな力が必要である。」と本授業を明示しておくことで、本授業をアウトプットの場として、中長期的な授業計画の中で意義付けることができた。
13. 成果が出た点	・生徒については、特になし ・自分自身については、自分自身の特性、限界を知る機会となった。

14. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	（災害が起こった時、「出来るだけ多くの命を守れる判断」をするために、みなさんが今からできることは何だと思いますか。という問いの答え抜粋） ・避難場所や避難経路を確認したい。 ・私自身実際に震災の現場に立った時に、パニックにならずにいられるか。ちゃんとした判断ができるかわからない。だからこそ、防災に対してのちょっとした準備とか日ごろのちょっとした判断を大切にしたい ・家族と連絡手段を決めておく ・1日1日を大切に生きて、顔に見える人たちに感謝を伝える ・判断の積み重ね
15. 授業者による自由記述	本年度参加したSDGs研修は、研究授業を含め自分自身の教員として、一個人としての在り方、生き方を考える貴重な機会となった。国内諸施設の視察だけでなくオンラインを活用して東京にいながら様々な立場で国際理解教育に携わる方たちからお話を伺うことができただけでなく、その学びを多種多様な自治体、校種から来た先生方と共有することで、多くの刺激とアイデア、モチベーションを得る事ができ、成長を実感できた研修であった。研究授業においても、授業改善に関する様々な視点やアイデアをいただき、自分の視野を広げる絶好の機会となった。一方、研修で得たアイデアや学びをなかなか学校に還元することができなかったことには、悔いが残る。様々な制約がある中で本研修を実現してくださった皆さまへの感謝の意味を込め、今後も本研修の成果を学校現場に還元していきたい。

授業資料「思考実験町長の使命」

防災×思考実験×哲学 「町長の使命」 ～差し迫った決断～ ここは沿岸から数キロのところにある小さな町の公民館。公民館には、地域の人の催し物を開くためのグラウンドがついています。あなたはこの町の町長で、日々地域の人のために仕事をしています。 ある日の午後。今まで経験したことのない大きな地震が町を襲いました。公民館の中も、ぐちゃぐちゃです。 地震から20分が経ち、避難所に指定されている公民館には地域の人たち約100名が避難をしてきました。 ちょうど隣に保育園と老人ホームがあり、小さな子どもと高齢者の方が半分を占めています。 グラウンドには、集まった住民が並んで待機しています。しかし、全員が集まっているわけではありません。特に技術を学ぶために公民館から徒歩15分の工場で働いている外国人実習生15名は、言葉の問題から避難ができていないようです。 そんな中、地域住民が言いました。 「もしかしら津波がくるかもしれない。進入禁止の裏山に避難した方がいい。」 また別の住民が言いました。 「いいや、ここに留まるべきだ。裏山は道が整備されているわけではない。まして、地震もあって崩れている可能性もあり、危険だ。大人は大丈夫かもしれないが、保育園の子どもたちや、おじいちゃん、おばあちゃんは危ない。ここに留まるべきだ。」 「しかし、万が一津波がきたら危ない。裏山の頂上にいけば助かるかもしれない。」 「いいや、この地域まで津波が来たことはない。下手に動く方が危ない。それに、まだここまで避難できていない地域のかたもいる。そういう人たちはどうするのだ？同じ地域に住む人を見捨てるのか？」 決断は町長であるあなたに委ねられました。 マニュアルには、「グラウンドに避難」とだけ書いてあります。 一体どうすればよいのでしょうか。	ワーク1 与えられた立場から、立場にあった選択を話し合ってください。 立場（ ） ワーク2 各グループの発表を聞き、気付いたこと、感じたこと、考えたことがあればメモをしよう。 ワーク3 あなた自身が実際にこの町の町長だったらどんな判断をしたと思いますか。 ワーク4 （授業中の指示を聞こう） ① ② ワーク5 （授業中の指示を聞こう） 年 組 番 名前
---	--

「町長の使命」

～差し迫った決断～

ここは沿岸から数キロのところにある小さな町の公民館。
公民館には、地域の人々の催し物を開くためのグラウンドがついています。
あなたはこの町の町長で、日々地域の人々のために仕事をしています。

ある日の午後。今まで経験したことのない大きな地震が町を襲いました。
公民館の中も、ぐちゃぐちゃです。

地震から 20 分が経ち、避難所に指定されている公民館には
地域の人たち約 100 名が避難をしてきました。

ちょうど隣に保育園と老人ホームがあり、
小さな子どもと高齢者の方が半分を占めています。

グラウンドには、集まった住民が並んで待機しています。
しかし、全員が集まっているわけではありません。
特に技術を学ぶために公民館から徒歩 15 分の工場で
働いている外国人実習生 15 名は、言葉の問題から
避難ができていないようです。

そんな中、地域住民が言いました。
「もしかしたら津波がくるかもしれない。進入禁止の裏山に避難した方がいい。」

また別の住民が言いました。
「いいや、ここに留まるべきだ。裏山は道が整備されているわけではない。まして、地震もあって崩れている可能性もあり、危険だ。大人は大丈夫かもしれないが、保育園の子どもたちや、おじいちゃん、おばあちゃんは危ない。ここに留まるべきだ。」

「しかし、万が一津波がきたら危ない。裏山の頂上にいけば助かるかもしれない。」

「いいや、この地域まで津波が来たことはない。
下手に動く方が危ない。それに、まだここまで避難できていない地域のかたもいる。
そういう人たちはどうするのだ？同じ地域に住む人を見捨てるのか？」

決断は町長であるあなたに委ねられました。
マニュアルには、「グラウンドに避難」とだけ書いてあります。
一体どうすればよいのでしょうか。

ワーク1 与えられた立場から、立場にあった選択を話し合って考えてください。

立場 （ ）

ワーク2 各グループの発表を聞き、気付いたこと、感じたこと、考えたことがあればメモをしよう。

ワーク3 あなた自身が実際にこの町の町長だったらどんな判断をしたと思いますか。

ワーク4 （授業中の指示を聞こう）

①

②

ワーク5 （授業中の指示を聞こう）

年 組 番 名前